



学校だより

小松川第二小学校

校長 五十嵐 一嘉

凡事徹底

校長 五十嵐 一嘉

9月18日(水)から20日(金)まで第五学年の宿泊行事である「セカンドスクール」を実施しました。不安定な天候のなかではありましたが、一部を除いては、ほぼ予定していた活動を行うことができました。参加した第五学年児童は、宿泊行事の生活を楽しんでいました。

私が本校に着任した平成三十年度には、セカンドスクールは第六学年で実施していました。期間は現在よりも長い六泊七日でした。当時は、児童が自分たちで食事を三食作る「自活キャンプ」や、現地のご家庭に宿泊する「民泊」、野菜などを収穫する「農業体験」なども行っていました。

様々な理由から、ここ数年間セカンドスクールは第五学年で二泊三日の期間で行っています。現在も宿泊先として使用している新潟県の国立妙高青少年自然の家は、小学生の宿泊行事には大変適した施設です。しかし学校から宿泊先までの移動が長時間かかるといった課題もあります。令和七年度以降の宿泊行事については、今後も校内で検討していきます。

さて今回のタイトルは「ぼんじてっい」と読みます。日本で生まれた言葉だそうです。多くの著名人が好んで使っています。

自動車用品メーカーの創業者である鍵山秀三氏もその一人です。鍵山氏は「凡事」を「当たり前のこと」ととらえています。そして鍵山氏は、凡事徹底とは、当たり前のことを当たり前実践するにとどまらず、「平凡なことを非凡なほどに実行する」つまり「他の人には真似できないほど徹底的に実践する」ことである、と自書のなかで提唱しています。また鍵山氏は「今まで、誰にでもできる平凡なことを、誰にもできないくらい徹底して続けました。そのおかげで、平凡の中からうまれる、大きな非凡を知ることができました。」とも語っています。

電機製品メーカーの創業者である松下幸之助氏も「簡単なことができない人に、難しいことはできない。」と言い、平凡を徹底的に積み上げていく者こそが大きな成功を得る、と述べています。その松下氏には、次のようなエピソードがあります。松下氏は取引先の企業を訪問した時に、売り上げや利益といった数字を見なくても、その企業の経営状況を瞬時に見抜いたといっています。松下氏の評価基準はとてもシンプルなものでした。一つめは従業員の「挨拶」、二つめは「整理整頓」、三つめは「トイレの清掃」です。この三つを見れば大体その会社の様子は分かると松下氏は話していたそうです。

現代の社会では、目に見えるところを飾り立てたり、短期的な成果ばかりを追い求めたり、評価されたりする風潮があると、私は感じる場合があります。しかし、目に見えないところや目立たないところを磨き上げることはとても大切なことだと思います。自分ができることを粘り強く継続する、そのことが積み重なり大きな成果を挙げることにつながるのではないのでしょうか。私たちは、何気ない当たり前のことを積み重ねていく「凡事徹底」を意識して生活していく必要があるのかもしれない。